九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

近世日本雇用史資料 : その四、大隅国高山郷守屋舎人日帳

秀村, 選三

https://doi.org/10.15017/4362566

出版情報：經濟學研究. 28 (6), pp.65-81, 1963-02-25. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

資料

近世日本雇用史資料

―その四、大隅国高山郷守屋舎人日帳―

秀村選三

解題

今回は幕末期薩摩藩における一上層郷士、大隅国高山郷（鹿児島県肝属郡高山町）の守屋舎人重堯（一七八九―一八七一）の日帳（守屋雄次郎氏所蔵）より守屋家の手作や家生活における労働の実態をうかがうために表を作成した。すなわち弘化三年（一八四六）・同五年（嘉永元年一八四八）・嘉永二年・同三年・安政七年（万延元年一八六〇）・万延二年（文久元年一八六一）・文久二年（一八六二）につき各年度の日々の労働の内容とその労働に従事する人名を表示することにした。もっとも、どの年度も部分的にしか知り得ないが、しかし各年度の月日を陽暦に換算し、陽暦の月日に応じて各年度のデータを重ね合わすならば、或程度一年間を通じて農作業や山作業、家内の雑事等における労働の種別や内容をうかがい得るであろう。また従事せる人名を諸種の史料によって調査することによって守屋家の労働組織の性格も或程度推測することが出来るとおもわれる。

今迄守屋舎人家については若干の考察をなしたが[1]、その中でも安政四年・同五年・元治元年については本資料と同様な表を作成し、三ヶ年分を組み合わせて労働の種別、内容、月別の配分、労働組織について分析したことがある[2]。その後守屋舎人日帳の他の年度についても読む機会に恵まれたので、前回の補遺の意味もありここに掲出することとする。

守屋家および守屋舎人についてはさきに発表せる諸論文において数回ふれたことがあるのでここでは詳しく述べない。大隅国高山郷の宗廟四十九所大明神の社家頭取で組頭・郷士年寄を勤むる家柄であって、持高四十石余、門の領主であり、一門を持切門、他に数門を持合門として支配している。しかも浮免・抱地を所持し手作すると共に一部は小作にも出していた。社家頭取の面は別としても、全般的に云って薩摩藩の上層郷士の一典型ということ

が出来よう。

守屋舎人日帳は文政八年（一八二五）十月十三日より明治四年（一八七一）十一月十三日に至る記録で、幕末・維新期における薩摩藩の一上層郷士の公私の生活全般について種々貴重な史料を提供してくれるように思われる。もちろん殆んど高山郷一郷に関することであって、その視野は広いとは云えないが郷村統治および郷村生活・家内部の記事はヴィヴィッドで公文書に見ることの出来ない具体性をもっている。概して云えば、舎人が郷の役職に就いている時期には役向――郷村統治・支配、調練、藩役人の応対、出府――について詳しく、役職に就いていない時期には村落や家の生活慣行・農業・郷内の祭祀等について詳しい。役職就任の時期と日帳の残存状態を表示すると次の通りである。

年度	年齢	役職	残存の日帳
寛政十年（一七九八）	1才（二月十三日誕生）		
文政八年（一八二五）	28	十月廿二日与頭	十月十三日
九年	29	……	……
十年	30	……	……
十一年	31	……	……
十二年	32	……	……
天保元年（一八三〇）	33	九月廿九日郷士年寄助	九月十二日
二年	34	……	九月廿七日（此の間欠）
三年	35	……	……
四年	36	……	……
五年	37	二月　八日退役御免	正月廿一日
六年	38	七月廿八日郷士年寄助	七月　一日（此の間欠）
七年	39	九月　十日郷士年寄	……
八年	40	……	……
九年	41	二月十九日退役御免	……
十年	42	……	……
十一年	43	……	……
十二年	44	……	……
十三年	45	……	……
十四年	46	（正月廿六日継目免許）	……
弘化元年（一八四四）	47	……	……
二年	48	……	……

年号	年	番号	記事	日記期間
	三年	49		閏五月十九日／閏五月廿日 ……
	四年	50		
嘉永	元年（一八四八）	51		十二月廿九日 …
	二年	52		正月元日
	三年	53	二月十日郷士年寄 ……	二月五日／二月六日 ……
	四年	54		
	五年	55		十一月十一日／十一月十二日 ……
	六年	56		二月廿七日／二月廿八日 ……
安政	元年（一八五四）	57		五月十七日／五月（十八日） ……
	二年	58		
	三年	59		十月十六日 … 十一月廿六日 …（此の間欠）
	四年	60		正月元日 …
	五年	61	…… 九月廿四日古郷士年寄トナル　退役御免	四月十二日／四月十三日 …
	六年	62		二月廿八日／三月一日 …
万延	元年（一八六〇）	63		……
文久	元年（一八六一）	64	四月七日郷士年寄 ……	八月十九日
	二年	65		九月十二日（此の間欠） …
	三年	66		五月十三日／五月十四日 … 九月廿九日／十月一日 ……
元治	元年（一八六四）	67		十月廿四日／十月廿六日 …
慶応	元年（一八六五）	68	閏五月　噯 ……	
	二年	69		七月一日 ……
	三年	70		六月十三日／六月十四日 ……
明治	元年（一八六八）	71	二月退役御免 ……	
	二年	72		
	三年	73		七月十一日／七月十二日 …
	四年	74	（十二月廿四日死）	十一月十三日（以下欠）

※日帳は綴紐が切れ相当分散・混雑していたが右の如く整理・復原した。一、二問題の箇所もあるが一応右の如くにしておく。

したがってここに掲出するものは比較的晩年の、しかも役職から離れていた時期が多い。

ところでここに表示する作業や作物については大隅地方独特のものもあり、また方言で書かれたものもあり、説明を要するものが少くない。地名についても説明を要するであろう。いづれも前に発表せる論文を参照していただきたい。人名については各作業に従事せる者の社会的性格を明らかにする必要があるが、日帳或は他の史料で実証することが必要で別稿において取り上げたいと思っている。大雑把に云って経常的には年中下人（デカン・メロ）日雇下人（ヒマ）[3]、臨時的には永代下人・子方的な郷士および社家（平社家・田舎社人）を主体としている。舎人自身やその子倭佐（納右衛門、後の常磐）も加わることがあるが監督的なものであろう。かくして相当規模の手作（嘉永四年田約一町二反・畠約二町三反、元治元年田約一町六反・畠二町三反）[4]がなされ上層郷士としての生活が営まれたのである。

註(1)　幕末薩藩郷士の農業経営と下人（経済学研究第十九巻第三号）・郷士手作における畑作の態様（九大九州文化史研究所紀要第六号）・薩藩郷士の手作における労働の態様（宮本又次編、九州経済史論集第三巻所収）・薩藩における一上層郷士の労働組織（近世日本の経済と社会・本庄栄治郎先生古稀記念論文集所収）・幕末薩藩における上層郷士と永代下人（土地制度史学第一号）。

(2)　右の第三論文労働の態様・第四論文労働組織参照。

(3)　秀村、近世日本雇用史資料(二)（経済学研究第二七巻第六号）参照。

(4)　史料の面積は一間六尺五寸竿であるから六尺竿に換算した。

凡　例

一、上段にその年度の月日を掲げ、これを陽暦に換算した。

二、作業の欄中、従事せる時間が明かな場合はこれを〔　〕内に入れた。

三、地名には右傍に・・点を付した。

四、従事せる人名は（　）内に入れた。人名が不明でも下人とか屋根葺・大工等の種別、或は人数が明かな場合はこれを入れた。

五、誤字・あて字には正字の傍註を付した。

弘化三年（一八四六）

月日	陽暦換算	作業の種別（従事せる人名）
閏五・廿六	七・一九	○千町田植田に油入（舎人・善八）
六・四	七・廿六	○〔五ツ時―暮〕松元余地粟作、城之裏粟作并粟引（舎人・下人其外七人）
六・五	七・廿七	○〔―六ツ半〕森之下粟作
六・六	七・廿八	○〔八ツ時―暮〕丸田牧粟作
六・十六	八・七	○屋敷大根蒔入
六・廿一	八・十二	○〔八ツ過ぐ〕煙草切ニ頼ム（利兵衛）
七・十	八・卅一	○〔朝―八ツ時分〕墓掃（下人二人）
七・十一	九・一	○〔五ツ過―日入時分〕小森原ニ蕎麦作（下女下人五人）
七・廿四	九・十四	○今日ゟ赤籾取始
八・三	九・廿一	○煙草切（日高利兵衛）

弘化五年（嘉永元年）（一八四八）

月日	陽暦換算	作業の種別（従事せる人名）
三・廿七	四・卅	○永山西瓜作（勘次郎）○馬屋延胄（屋祢延胄四人・小取六人）
四・二	五・四	○〔四ツ時ゟ〕茶あぶり（日高利兵衛）
四・三	五・五	○茶焙（〔五ツ時ゟ〕山口喜右ェ門〔四ツ時ゟ〕日高利兵衛）
四・五	五・七	○〔五ツ半ゟ〕茶焙（日高利兵衛）
四・六	五・八	○茶焙（多仲・左膳妻）
四・十三	五・十五	○中間西瓜蒔次（舎人）
四・十九	五・廿	○永山西瓜掛肥
四・廿二	五・廿四	○千町麦取（舎人・善八・勘次郎・すゑ）
四・廿五	五・廿七	○永山中間西瓜肥 ○〔八ツ時ゟ七ツ半〕城之裏大蕪青子取（舎人・善八）
四・廿七	五・廿九	○西瓜肥掛（善八）
五・朔	六・一	○権現ケ迫裸麦取（下人共）
五・三	六・三	○煙草切（日高利兵衛） ○宮下村へまこも貰（勘次郎）
五・四	六・四	○粽加勢（源太夫）
五・十六	六・十六	○永山西瓜追肥
五・十七	六・十七	○藁穂取（舎人）
五・十八	六・十八	○藁差（舎人） ○骨はたき・屋敷取草（山口喜右ェ門）
五・十九	六・十九	○中間西瓜中打

五・廿五　六・廿五　○松下屋敷楮芽かき　○松下屋敷ゟ松元余地に草葉引（下人共）

五・廿八　六・廿八　○千町田苗取（八人）　○苗取（壱人）

五・廿九　六・廿九　○〔六ツ半ゟ〕千町田植田（下人共・朝拾七人・昼拾壱人）

六・　三　七・　三　○〔四ツ時ゟ〕中牧畠大豆作入、権現ケ迫大豆作入（舎人・下人共）

六・　四　七・　四　○〔八ツ時ゟ〕千町田植田見廻リ、永山中間西瓜見廻リ（舎人）　○煙草切（日高利兵衛）

六・十一　七・十一　○〔五ツ時分ゟ〕丸田牧大豆作（舎人・下人共）

六・十二　七・十二　○〔九ツ半〜七ツ時〕城之裏大豆作入（舎人・下人共）　○唐芋引掛（下人共）　○西瓜見（舎人）

六・廿二　七・廿二　○中間西瓜取ニ遣ス（下人共）

六・廿六　七・廿六　○〔九ツ半〜七ツ半〕松元余地・松下屋敷粟作（舎人・下女・下人）

七・十　八・八　○墓捔（舎人・泰造下人）

七・十一　八・　九　○行燈張（日高利兵衛）

七・十二　八・十　○梵道（ママ）作、庭草取加勢（福見四郎）

七・十八　八・十六　○薪取・大豆草取・中引・中打（下人共）

七・十九　八・十七　○〔朝〕苧取（下人共）

八・　五　九・　二　○道中へ遣ス（勘次郎）

八・　六　九・　三　○〔六ツ過ゟ八ツ時〕道中蕎麦四反作入中引（舎人・下女下人五人）　○松本屋敷粟中引（下人共）

八・　七　九・　四　○〔八ツ時〜七ツ半〕城之裏蕎麦作入（舎人）

八・　八　九・　五　○嶽へ湯取ニ書ス（半六・勘次郎）

八・　九　九・　六　○〔明六ツ出立〕波見浦に鯨骨取（勘次郎）

八・十一　九・　八　○木臼ノ歯切（左膳）

八・廿一　九・十八　○松取ニ遣ス（勘次郎）　○午房蒔・だ(ら)つきよう植（甚助）

九・　三　九・廿九　○〔晩〕煙草切（河野隼人）

九・十二　十・　八　○畳替（多仲）　○蔵之後山崩（甚助）

九・十四　十・　十　○畳替（多仲）　○土蔵後地引並（次郎・甚助）

九・十七　十・十三　○障子張（日高利兵衛）

九・十八　十・十四　○丸田牧大蕪青子作入（甚助・勘次郎）

十・　八　十一・　三

十・廿四　十一・十九　○煙草切（日高利兵衛）

十二・十一　一八四九　一・五　○すゝ下け、箸かき

嘉永二年（一八四九）

三・朔　三・廿四　○加勢ニ参（富山村奥門善八）

三・二　三・廿五　○新植楮直方（舎人・善八・勘次郎）

三・八　三・卅一　○朔日ゟ加勢、昨日帰（善八）

三・十四　四・五　○煙草切（日高利兵衛）

三・廿二　四・十四　○五社屋敷竹切（舎人・甚助・勘次郎）　○莚胄替

三・廿三　四・十五　○屋根莚胄

三・廿六　四・十八　○煙草切（日高利兵衛）

四・十一　五・三　○〔四ツ半ゟ〕茶焙（日高利兵衛・清右門）〔八ツ半迄〕〔八ツ迄〕　○油粕はたき（多仲）

四・十二　五・四　○〔四ツ時〜八ツ半〕茶焙（日高利兵衛）

四・十三　五・五　○田之下地（切通仁平太・十八）　○茶焙（舎人）

四・十四　五・六　○〔四ツ時〜九ツ半〕茶焙（舎人・勘次郎）

四・十六　五・八　○赤籾作（切通仁平太・左織・甚助）

四・十八　五・十　○茶焙

四・十九　五・十一　○茶焙（八ツ半時分相済）

四・廿九　五・廿一　○煙草切（日高利兵衛）

閏四・三　五・廿四　○茶焙

閏四・四　五・廿五　○茶焙

閏四・七　五・廿八　○〔朝〕茄子植、〔昼〕胡瓜・ふろふ手呉

閏四・廿一　六・十一　○〔五ツ過迄〕松元余地苗楮草取

閏四・廿三　六・十三　○小麦刈（切通仁平太・山口喜右ェ門相頼ム）

五・四　六・廿三　○〔四ツ—八ツ時〕粽加勢（津曲仲助）

五・九　六・廿八　○屋敷取草（山口喜右ェ門）

五・十　六・廿九　○草葉引（山口喜右ェ門）

五・十二　七・一　○千町田草はめ（山口喜右ェ門其外）

五・十三　七・二　○〔八ツ過迄〕千町田草はめ（下人共）

五・十四　七・三　○千町田草はめ（壱人）千町田草負（壱人）千町田苗取（七人）

五・十五　七・四　○千町田田植相済（拾五人）

五・廿三　七・十二　〇〔九ツ時―七ツ時〕城之裏大豆作
五・廿四　七・十三　〇大豆作（切通仁平太）
五・廿五　七・十四　〇寺田草取（福留門小太郎）　〇〔八ツ時ゟ〕権現ケ迫大豆作（舎人・小太郎）
五・晦　七・十九　〇〔四ツ時―九ツ時〕煙草切（日高利兵衛）
六・四　七・廿三　〇書物虫干（日高利兵衛）
六・五　七・廿四　〇〔八ツ時ゟ夜入〕丸田牧大豆作入（舎人・下人共）
六・十　七・廿九　〇、四ツ半迄〕松元余地粟作（舎人・小太郎・はき）　〇〔昼〕粟作（下人共）
七・六　八・廿三　〇〔四ツ時ゟ〕行燈張・煙草切（日高利兵衛）　〇芋取（切通仁平太・荒平之金次郎）
七・十　八・廿七　〇墓掃（舎人・泰造下人）
七・十二　八・廿九　〇〔四ツ時―七ツ時〕煙草切（日高利兵衛）
七・廿三　九・九　〇〔九ツ過―七ツ半〕城之裏蕎麦作（舎人・下人共）
七・廿五　九・十一　〇〔五ツ時―九ツ半〕丸田牧蕎麦作（舎人・下人共）
八・廿三　十・九　〇〔九ツ時―七ツ過〕障子張（日高利兵衛）

八・廿五　十・十一　〇〔四ツ時ゟ〕障子張（日高利兵衛）
八・廿六　十・十二　〇〔五ツ時ゟ〕障子張（日高利兵衛）　万石取（五人）
八・廿七　十・十三　〇万石取（六人）
八・廿八　十・十四　〇万石取（六人）
九・二　十・十七　〇〔四ツ過ゟ八ツ時〕煙草伐（日高利兵衛）
九・三　十・十八　〇中牟田赤籾取（下人共）
九・四　十・十九　〇寺田赤籾取（下人共）
九・五　十・廿　〇千町田餅取（下人共）
九・六　十・廿一　〇千町田餅取（八人？）
九・七　十・廿二　〇〔九ツ時ゟ八ツ過〕城之裏大蕪青子作入（舎人）　〇柴差
十一・一　十二・十五　〇小麦肥負（下人共）
十一・三　十二・十七　〇城之裏・権現ケ迫小麦蒔（切通仁平太・女二人）　〇ほり方（勘次郎）
十一・廿五　一八五〇一・八　〇煙草切（日高利兵衛）
十一・廿九　一・十二　〇〔八ツ半時分―五ツ時分〕煙草切（日高利兵衛）
十二・廿四　二・五　〇〔八ツ半―五ツ時分〕煙草切（日高利兵衛）

嘉永三年（一八五〇）

正・十一	二・廿二	○小森茶縁(園)拵（下人共）○丸田牧迄相済（南次郎・市郎・次郎）
正・廿	三・三	○崎山野火除（下人南次郎・津曲竜右エ門下人同道ニ而書遣ス）
正・廿三	三・六	○わた打（左織・勘左エ門）
正・廿六	三・九	○田布尾乱杭伐（下人市郎・南次郎）○〔八ツ過―五ツ時〕煙草切（日高利兵衛）
二・廿二	四・四	○千町田井手開（下人市郎）
三・四	四・十五	○当住惣薙替
三・五	四・十六	
三・六	四・十七	
三・廿	五・一	○中牧畠へ行（隼人・南次郎）
三・廿五	五・六	○茶焙（多仲）
四・七	五・十八	○煙草切（日高利兵衛）
四・十二	五・廿三	○佐牟田下地（山口喜右エ門・児玉衛守）
四・廿五	六・五	○八幡馬場屋敷裸麦取
五・八	六・十七	○煙草切（日高利兵衛）○小麦打方（市郎・南次郎）
六・朔	七・九	○〔終日〕千町田植方
六・三	七・十一	○〔八ツ時―七ツ過〕城之裏大豆作入（舎人・下人共）
六・五	七・十三	○〔五ツ時―四ツ過〕城之裏大豆作入（舎人・下人共）
六・六	七・十四	○〔八ツ時―七ツ半〕権現ケ迫ゟ中牧大豆作入（舎人・下人共）
六・廿五	八・二	○松取（次郎）
六・廿八	八・五	○西田之小八所へ木臼持ニ遣候（小市・次郎）
七・廿	八・廿七	○〔朝―四ツ過〕城之裏蕎麦作（舎人・下人）
七・廿一	八・廿八	○西田之上畠教方（舎人・南次郎）
七・廿五	九・一	○〔五ツ時―九ツ時〕丸田牧蕎麦作（舎人・下人）
七・廿八	九・四	○煙草延（上床助四郎）
八・廿二	九・廿七	○今日ゟ赤籾取頼入（山口喜右エ門）
九・十二	十・十七	○〔一刻〕煙草切方（日高利兵衛）
九・十六	十・廿一	○〔五ツ時分ゟ〕垣普請 ○〔九ツ時ゟ〕障子張（日高利兵衛）
九・十八	十・廿三	○〔五ツ過〕薪負駄付越（福見四郎）

九・廿二　十・廿七　○〔九ツ時ゟ〕障子張（日高利兵衛）
九・廿四　十・廿九　○万石取
九・廿七　十一・一　○万石取（下人共）
十一・二　十二・五　○障子張（日高利兵衛）
十二・二　一八五一・三　○唐芋取
一・三　○麦蒔（山口喜右ェ門）

安政七年（万延元年）（一八六〇）

正・四　一・二六　○乙名祝
正・八　一・三〇　○〔四ツ時ゟ七ツ半〕崎山行、野火除ケ、払方（舎人・三太郎・津曲仲助下人）
正・十　二・一　○〔五ツ半ゟ〕塚崎・横頭行、松苗三百本植方（舎人・倭佐・三太郎・八十）
正・十一　二・十一　○〔四ツ時ゟ〕西迫抱地杉山境踏（舎人・倭佐・入部次郎兵衛・次郎・中原吉松門太郎）
正・廿三　二・十四　○〔四ツ時ゟ〕横頭小払（辰五郎・三太郎・舎人）
正・廿四　二・十五　○横頭草払・松植方（三太郎・八十・長

正・廿五　二・十六　四郎・〔四ツ半ゟ暮迄〕舎人）
○横頭草払（長四郎・八十・〔四ツ半ゟ暮迄〕舎人）
正・廿六　二・十七　○下人助右衛門参
正・廿七　二・十八　○横頭ニ遣置（三太郎・八十・〔四ツ半ゟ暮〕舎人）
正・廿九　二・廿　○〔四ツ時ゟ暮迄〕崎山行、薪取（舎人・八十）
正・晦　二・廿一　○崎山抱地へ遣ス（三太郎・八十〔四ツ半ゟ〕舎人）
二・朔　二・廿二　○〔四ツ時ゟ暮迄〕下草払・松薪取（舎人・三太郎・八十・正八）
二・三　二・廿四　○崎山松薪取（小市・八十）崎山・杉下草払（助右衛門・次郎）○崎山行（舎人・倭佐）
二・四　二・廿五　○崎山松薪取（小市・次郎）崎山杉下草払（助右衛門・八十）○大根引（三太郎）○崎山行（舎人）
二・五　二・廿六　○崎山松薪取（小市・次郎）○崎山杉下草払（助右衛門・八十）○〔朝〕薪さすり木〔昼〕崎山下草払（三太郎）○〔五ツ半―暮〕崎山行（舎人）

二・六　二・廿七
○臼摺・米舂（助右衛門）　○崎山松薪取〔八ツ半帰〕（三太郎・八十）

二・九　三・一
○焼酎煮（三太郎）　○馬之綱かき（八十・正八・次郎）

二・十　三・二
○肥入俵あみ（三太郎）　○薪割、〔七ツ半ゟ〕米舂（八十・正八・次郎）

二・十一　三・三
○崎山松薪取（三太郎・八十）　○崎山下草払（次郎）

二・十二　三・四
○崎山松薪取（三太郎・八十）　○崎山下草払（次郎）

二・十三　三・五
○〔五ツ半ゟ暮〕横頭杉・櫨弐千弐百五拾本差入（舎人・倭佐・三太郎・八十・次郎）

二・十四　三・六
○小縄なひ（三太郎）　○薪割（八十・次郎）

二・十五　三・七
○崎山松薪取（三太郎・八十）

二・十六　三・八
○崎山松薪取（三太郎・次郎）　○崎山杉下草払（長四郎・八十）　○〔四ツ—暮〕崎山行（舎人）

二・十七　三・九
○崎山松薪取（三太郎・長四郎）　○崎山下草払（助右衛門・八十・次郎）　○〔四ツ—七ツ〕崎山行（舎人）

二・十八　三・十
○崎山松薪取（三太郎・八十）　○崎山杉下草払（助右衛門・次郎）　○〔五ツ過—暮〕崎山行（舎人）

二・十九　三・十一
○崎山松薪取（三太郎）　○崎山杉下草払（助右衛門・長四郎・次郎）　○崎山行（舎人）

二・廿　三・十二
○崎山松薪取（三太郎・次郎）　○崎山杉木場払（助右衛門・八十）　○〔四ツ—七ツ半〕崎山行（舎人）

二・廿一　三・十三
○崎山柴薪取（三太郎）　○崎山杉差入・灰焼（八十）　○〔四ツ—暮〕崎山行（舎人・倭佐）

二・廿二　三・十四
○崎山松薪取（三太郎・口郎（次カ）・加勢仁八）　○崎山灰焼（八十）　○〔四ツ—暮〕崎山行（舎人）

二・廿三　三・十五
○田鋤（三太郎）　○田打（八十・正八・次郎）

二・廿四　三・十六
○牛之口ひら作（三太郎）　○薪割（八十・正八・次郎）

二・廿五　三・十七
○田鋤（三太郎）　○田打起（正八・次郎・八十）

二・廿六　三・十八
○田打起（助右衛門・八十）　○〔朝〕模

二・廿七　三・十九　合跡へ杉差、〔昼〕田打起（次郎）○庭鳥玉子だかせ
○田すき（三太郎）○田打越（起）（助右衛門・八十・次郎）○札立方為致候
二・廿八　三・廿　○〔朝〕田鋤（三太郎）○〔朝〕田打起（次郎・八十）○〔朝〕薪負（助右衛門）○田踊有之
二・廿九　三・廿一　○籾摺（八十）○〔朝〕薪割〔昼〕米舂（次郎）○〔朝〕仮屋へ差越〔昼〕薪割（三太郎）
三・朔　三・廿二　○畠鋤（三太郎）○下草払・薪負（八十）
三・二　三・廿三　○内ニ召仕（八十・三太郎）
三・四　三・廿五　○倭佐等鵜戸参詣ニ召列（八十）○内ニ召仕（三太郎・助右衛門）
三・五　三・廿六　○病気（三太郎）○薪割（八十）
三・六　三・廿七　○内ニ召仕（三太郎・八十・次郎）
三・七　三・廿八　○崎山杉下草払（八十・□（次郎カ））○畠鋤（三太郎）○〔四ツ―暮〕崎山行（舎人）
三・八　三・廿九　○崎山杉下草払（八十・次郎）○畠すき（三太郎）
三・九　三・卅　○田地弐番打起（三太郎・八十・次郎）
三・十　三・卅一　○鑓之溜池成就踊見物（三太郎・八十・次郎）
三・十一　四・一　○崎山杉下草払（八十・次郎）○〔四ツ―七ツ半〕崎山行（舎人）○苗床よみ（三太郎）○蚕飼方始る
三・十二　四・二　○崎山下草払（小市・辰五郎・八十・次郎）○雑葉蒔入（三太郎）
三・十三　四・三　○崎山杉下草払（小市・辰五郎・八十）○〔四ツ―〕崎山行（舎人）○雑葉蒔入（三太郎）○児嶋祐斉家作加勢ニ遣ス（次郎）
三・十四　四・四　○崎山下草払（小市・助右衛門・八十・次郎）○〔五ツ過―暮〕崎山行（舎人）○雑葉蒔・焼酎煮（三太郎）
三・十五　四・五　○崎山杉下草払・焼方（辰五郎・助右衛門・八十・次郎）○〔四ツ―暮〕崎山行・め差（舎人・倭佐）○田鋤（三太郎）○□石修甫（福留門小太郎）
三・十六　四・六　○鵜戸参詣召列（次郎）○煙草肥入（三太郎）○大根草取（正八・八十）
三・十七　四・七　○千町田苗床大根草はめ（三太郎・八十）○城之裏大根草取・負方（正八・次郎）
三・十八　四・八　○川上社参詣召列（乙）○〔朝〕竹灰取〔昼〕大根草取（次郎）○吉井宗太郎所

三・十九　四・九　口立加勢(家カ)ニ遣ス（八十）
○〔朝〕千町田へ大根草三度負（八十・次郎）　○〔朝〕下之門之辺へ牛買(三太郎)

三・廿　四・十　○〔朝〕田中嶋苗床大根草はめ、〔昼〕苗唐芋上ケ・煙草植付（三太郎・八十）
○〔昼〕千町田苗床草はめ・石原田苗床草はめ（三太郎・八十）　○〔昼〕四元余地大根草取・馬之受物等取方（次郎）

三・廿一　四・十一　○唐芋苗伏（三太郎・辰五郎・次郎）

三・廿二　四・十二　○〔朝〕唐芋苗伏〔昼〕石ケ崎之下、田地弐番打起（三太郎・八十・次郎）

三・廿三　四・十三　○田地弐番打起（小市・八十・三太郎・次郎）

三・廿四　四・十四　○〔朝〕胡瓜・ふろふ蒔入　○佐牟田・牧原之下・田地弐番打越(起)（三太郎・小市・八十）

三・廿五　四・十五　○大工（有馬宗右ェ門）　○千町田ゟ石原田弐番鋤（三太郎）　○田地弐番打起済・里芋拵方（助右衛門・八十・正八）

三・廿六　四・十六　○唐芋上ケ（八十）　○〔朝〕石原田弐番すき済〔昼〕唐芋上ケ（三太郎）　○こんにやく畠打幷大工小取（次郎）　○大工

三・廿七　四・十七　○大工（宗右衛門）　○〔朝一刻〕三太郎田地打起〔夫ゟ〕唐芋上ケ（三太郎・八十・次郎）　（宗右衛門）

三・廿八　四・十八　○〔朝半〕唐芋上ケ済・こんにやく植方〔昼〕苗床足駄踏（三太郎・次郎）　○病気（八十）

三・廿九　四・十九　○内ニ召仕（三太郎・次郎・八十）

三・晦　四・廿　○〔昼〕連正院(宇都宮)所牛買（三太郎）

閏三・朔　四・廿一　○田地中手苗蒔入（三太郎）　○松取（八十）　○内ニ召置、だつきよう(ら)草取（次郎）

閏三・二　四・廿二　○上之原早馬見物〔家内女・下女・下人〕

閏三・三　四・廿三　○〔昼〕崎山・竹灰焼(次郎・八十・正八)

閏三・四　四・廿四　○〔朝〕内ニ召仕〔昼〕竹灰焼方（三太郎・次郎・八十・正八）

閏三・五　四・廿五　○崎山竹灰焼・成就（三太郎・八十・次郎）

閏三・六　四・廿六　○焼酎煮（三太郎）　○白砂負（八十）　○野菜芋植方（次郎）　○茶炒（舎人）　○〔朝〕崎山竹灰取（三太郎・次郎）　○〔朝〕内ニ召仕〔昼〕森之下煙草追肥（八十）

閏三・七　四・廿七　○畠鋤（三太郎）○畠打（八十・次郎）
閏三・八　四・廿八　○畠すき（三太郎）○木之葉取（八十）
○佐牟田溝堀（次郎）
閏三・十八　五・八　○瓜・西瓜蒔次
四・朔　五・廿一　○胡瓜・西瓜蒔次
四・二　五・廿二　○家棟取（多仲・下之門之三）
四・十一　五・卅一　○藁買と〳〵野崎村代宮司所へ遣ス（次郎）
四・十六　六・五　○裸麦取・小麦刈と〳〵城之裏に（下人共）
○〔五ツ過―七ツ過〕同上（舎人・女抔）
四・廿　六・九　○麦刈（女抔・下人共）
五・四　六・廿二　○内ニ召仕（下人共）
五・十二　六・卅　○八幡馬場屋敷雑葉引（女抔）
五・十三　七・一　〔朝〕びん掛雑葉引
五・十四　七・二　〔朝〕びん掛雑葉引
五・十七　七・五　○田植
五・十八　七・六
五・十九　七・七　○田植成就
五・廿六　七・十四　○〔昼〕権現ケ迫大豆作入（倭佐・下人共三人）

六・八　七・廿五　○臼ノ目切（福留門小太郎）
六・十四　七・卅一　○〔八ツ時―暮〕尾瀬那粟作（舎人・下人共）○居家棟取（多仲）
六・十七　八・三　○城之裏粟作入（舎人・下人共）
六・廿三　八・九　○児嶋竜右衛門所行に召列（八十）
六・廿五　八・十一　○〔暮六ツ比〕地頭仮屋御用（下人共）
七・二　八・十八　○山下之上へ遣ス・芝灰焼（小市・助右衛門・三太郎・次郎）
七・四　八・廿　○〔五ツ時―九ツ時〕崎山家作木見合（舎人・倭佐・渋江三次郎・八十）
七・廿　九・五　○煙草延（多仲）
七・廿一　九・六　〃〃相済
七・廿二　九・七
七・廿四　九・九　○城之裏・麻之跡蕎麦作入、権現ケ迫芝灰四塚焼方（下人共）○〔五ツ半―九ツ時〕城之裏・権現ケ迫行（舎人）
七・廿六　九・十一　○木挽
七・廿七　九・十二　○木挽
七・廿八　九・十三　○木挽
七・廿九　九・十四　○木挽・大工

八・朔　九・十五　○木挽・大工
八・二　九・十六　○木挽・大工
八・三　九・十七　○大工弐人
八・四　九・十八　○大工弐人
八・五　九・十九　○大工弐人・木挽弐人
八・九　九・廿三　○崎山・杉木見合（舎人・大工・木挽）
八・廿四　十・八　○〔四ツ時―日入前〕城之裏・権現ケ迫胡麻見廻り、千町田万石見廻り、佐牟田赤籾取之所へ行（舎人）
九・二　十・十五　○〔五ツ時―暮六ツ半〕千町田万石取（舎人・外に六人）
九・三　十・十六　○町彦市所ニ糀取（三太郎）　○〔五ツ時―八ツ過〕千町田万石取（人数六人）
九・四　十・十七　○〔五ツ時―暮〕千町田万石取（七人）
九・十六　十・廿九　○垣普請加勢（田舎社人共）
九・十七　十・卅　○泊り居今日迄ゝ加勢（福見四郎・前田之正八）　○出産・波見浦へ医師迎ェ（駕籠持夫四人・市来弥一郎）
九・晦　十一・十二　○今日ゟ戸壁相放候

十・二　十一・十四　○隠居家解（前田村甚太・町与三次）
十・三　十一・十五　○家解・運方〔朝・済〕（前田村甚太・町与三次）
十・五　十一・十七　○屋地細石負（馬六疋）
十・六　十一・十八　○地堅（下人共五人・加勢九人）
十・七　十一・十九　○柱石居（本城石切三人）
十・八　十一・廿　○隠居家立
十・九　十一・廿一　○〔朝〕かな手本戻シ（三太郎）
十・廿四　十二・六　○〔七ツ時分〕るひ薬貰ニ鎌田松斎へ遣ス（次郎）
十一・七　十二・十八　○崎山へ木挽助太郎召列・権現ケ迫・□・川路・城之裏大豆引見廻（舎人）
十二・十　一八六一・廿　○本城之領分共参候事
十二・十二　一・廿一　○畳取繕（多仲）　○井炉裏塗方（町助吉）　○障子張（市来弥一郎）
十二・十三　一・廿二　○牛馬療治（始良馬医浅右衛門）
十二・廿一　一・卅一　○〔昼〕煤さけ　○〔晩〕箸かき
十二・廿六　二・五　○守屋泰造墓石持
十二・廿七　二・六　○泰造墓石立（石切・福留門小太郎・新左衛門）

万延二年（文久元年）（一八六一）

正・四　二・一三　○乙名祝

正・九　二・一八　○〔四ツ時―四ツ過〕崎山杉木伐方（舎人・有馬宗右衛門・日高万作）

正・廿　三・一　○〔五ツ時―日入時分〕中原杉山下草払（舎人・下人五人）

正・廿三　三・四　○中原杉山下草払（下人其共）○〔五ツ過―八ツ過〕中原行（舎人）

正・廿七　三・八　○波見浦重新兵衛手伝之者参ル

二・廿六　四・五　○〔九ツ時―暮〕塚崎・横頭抱地行、ひめ椿植付、崎山行ひめ椿植付、杉差入（舎人・三太郎・金太・八十）

三・十一　四・廿　○ふろふ・胡瓜蒔入

三・十七　四・廿六　○小森茶つみ

三・十八　四・廿七　○茶炒

三・廿二　五・一　○茶炒

七・六　八・十一　○垣つみ（市来弥一郎）

七・七　八・十二　○冬鵜戸（娘）参詣召列（けさ次郎）

七・一九　八・廿三　○煙草もき方（舎人）

七・廿四　八・廿九　○〔朝〕麻取

八・廿　九・廿四　○障子張（日高彦五郎）

九・七　十・十　○赤籾取（仁平太）　○庭草取（福見四郎）

九・八　十・十一　○築山其外つみ方（納一郎）

十一・廿八　十二・廿九（一八六二）　○〔六ツ半―八ツ時〕尾瀬那唐芋打

十二・二　一一・一　○城之裏唐芋打（下人共）　○〔四ツ時―暮時分〕城之裏、永山之地蔵院（清水家）松山へ行（舎人）

十二・三　一・二　○〔七ツ過―〕永山納一郎（守屋）松山行（舎人、八十）

文久二年（一八六二）

二・十一　三・十一　○〔四ツ時―八ツ〕煙草切（市来弥一郎）

二・十九　三・十九　○〔五ツ時―六ツ時〕崎山杉下草払（舎人・下人共三人）

二・廿五　三・廿五　○〔五ツ時―〕崎山杉下草払（舎人・下人共）

二・廿九　三・廿九　○〔九ツ過ぎ〕権現ケ迫ゟ城之裏畠見廻リ

三・朔	三・卅	（舎人・倭佐・後に下人三太）
三・四	四・二	○崎山杉下草払（倭佐・下人共・舎人）
		○〔四ツ時ゟ〕城之裏行・大根草見廻リ・三反畠大根草見廻リ（舎人）
三・五	四・三	○佐牟田下田開（三太郎・金太郎・倭佐）

〔後記〕　守屋舎人日帳の所蔵者守屋雄次郎氏はじめ高山町の多くの方々、ことに守屋貞子氏・守屋泰造氏・日高栄子氏・柿元東氏・中村建爾氏に厚く感謝の意を表する。